令和7年度

保健福祉学部附属診療センター

年報

目次

Ⅰ　年度目標と実績

Ⅱ　診療実績

Ⅲ　教育実績

Ⅳ　研究業績

Ⅴ　従事者名簿

令和7年度目標と実績のまとめ

目標

①医療機関としての安全管理体制整備

★安定的な体制維持のための診療機能の検討

★適切な業務体制の確立

★感染症等の迅速な情報収集と対策の実施

★医療安全のための定期研修，定期点検の実施，安全対策の周知

★個人情報の適切な管理

②教育および研究のための体制の充実

★学生の学内実習・見学の実施

③今後の役割と施設機能の方向性の検討

★業務内容の効率化

★備品の計画的な更新

★広島県地域リハビリテーションサポートセンターとしての地域貢献

★積極的な附属診療センターの広報

実績

①医療機関としての安全管理体制整備

◆診療実績

初診患者（54名），のべ患者数（1,512件），リハビリテーション（1,316件）

◆診療センター規定の適宜見直し

◆感染症対応（感染予防と診療機能維持の併行）

・継続した感染症対策

◆安全対策のための研修会等の実施

・転倒予防対策，ヒヤリハット事例への対応

・診療用放射線の安全利用研修の実施

・医療安全研修会の実施

「企業と共同開発した短下肢装具の装着自立に資する自助具の開発（7月23日）」

因島医師会病院 リハビリテーション科 作業療法士 横山結先生

「安全な学校参加を目指した小学校における環境調整－作業療法士による学校訪問支援－（12月10日）」

県立広島大学保健福祉学部 保健福祉学科 作業療法学コース　准教授　助川文子先生

◆コツコツ健康増進号の診療センター備品化と利用促進（出動回数：45回 測定人数：延べ1260名）

②教育および研究のための体制の充実

◆コミュニケーション障害学コース・作業療法学コース・理学療法学コース臨床実習施設としての教育実績

学内実習（64名），学内者見学（275名），学外者見学（495名）

③今後の役割と施設機能の方向性の検討

◆備品の計画的な整備・更新（知能検査用具，感覚統合器具等）

◆広島県地域リハビリテーションサポートセンター指定施設（平成30年1月1日より継続中）

住民運営の通いの場への人材派遣　9回

◆附属診療センターの広報（本年度はWEB配信にて実施）

感染流行下での業務体制のお知らせ，オープンキャンパス等の実施

公開講座の実施

・「明日からととのう！アンチエイジング」(令和7年6月21日)

田口亜紀,飯田忠行,大古場良太,今川記恵

◆年報の作成と公表

来年度計画

①医療機関としての安全管理体制整備

★確実な診療体制の構築

★医療安全のための定期点検・安全対策の周知

★感染症等の迅速な情報収集と対策の実施

★個人情報の適切な管理

★健全な経営・コスト意識の浸透

②教育および研究のための体制の充実

★学生の学内実習・見学の積極的な実施

③今後の役割と施設機能の方向性の検討

★業務内容の効率化

★備品の計画的な更新

★広島県地域リハビリテーションサポートセンターとしての地域貢献

★附属診療センターの広報の拡大（地域住民向け公開講座等）

令和7年度統計

①地域別

地域	初診	再診	実人数	のべ人数
広島県	49	190	239	1486
県外	5	4	9	26
合計	54	194	248	1,512

②年齢別

年齢	初診	再診	実人数
3歳未満	1	3	4
3歳～6歳	5	8	13
小学生	15	36	51
中学生	9	28	37
16歳～20歳	1	27	28
21歳～30歳	2	13	15
31歳～40歳	3	8	11
41歳～50歳	2	8	10
51歳～60歳	3	17	20
61歳～70歳	2	10	12
71歳～80歳	5	21	26
81歳～90歳	6	14	20
91歳以上	0	1	1
合計	54	194	248

③初診患者の主診断名

診断名	人数
発声障害	6
声帯結節・萎縮	8
構音障害	2
吃音	4
先天性難聴	0
難聴	10
言語発達遅延	0
注意欠陥多動障害	3
自閉スペクトラム症	13
学習障害	2
その他の小児神経疾患	5
脳血管障害	0
その他	1
合計	54

Ⅲ　教育実績

【授業・見学】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
卒業研究 （作業療法学コース）	3	1	10月～3月	6	附属診療センターの通院者とその保護者に対する作業療法を見学した。また、保護者に対して、育児ストレスに対する対処法の聞き取り調査を実施し、今後の有用な方略を検討した。
認知系障害学概論Ⅱ （コミュニケーション障害学コース）	2	29	2Q	1	コミュニケーション障害学コース学の2年次生を対象とし、実際の症例への言語聴覚療法の実施動画を視聴しながら、失語症例の症状や特徴を学習した。
発達系障害学演習Ⅰ （コミュニケーション障害学コース）	2	29	3Q	8	コミュニケーション障害学コース2年必修科目の演習において、新版K式発達検査、田中ビネー検査、STRAW-R、Rey複雑図形検査、WAVESの諸検査の演習にあたり、診療センター患者の検査データを改変して演習を行った。
発達系障害学演習Ⅱ （コミュニケーション障害学コース）	3	31	1Q	7	コミュニケーション障害学コース3年必修科目の演習において、K-ABC2の検査演習および、限局性学習症事例の評価演習のために診療センター患者の検査データを改変して演習を行った。
発達系障害学演習Ⅲ （コミュニケーション障害学コース）	3	30	2Q	5	コミュニケーション障害学コース3年必修科目の演習の臨床推論事例、学習障害の支援演習の事例を診療センター患者の検査データを改変して演習を行った。
発達系障害学演習Ⅳ （コミュニケーション障害学コース）	3	31	4Q	4	コミュニケーション障害学コース3年必修科目の演習において、診療センター患者を元にして作成された事例資料を使って演習を行った。（知的障害・自閉症併存事例、小児高次脳機能障害事例、軽度知的障害事例）
認知系障害学演Ⅳ（総合・地域） （コミュニケーション障害学コース）	3	31	4Q	4	各担当教員が、診療センターで言語聴覚療法を担当する失語症などの（デフォルメした）データに基づき、個別訓練や集団訓練計画を立案・デモンストレーションを実施した。その後、実際の訓練場面をご本人・ご家族のご協力のもと提示した。
認知系障害学概論Ⅱ （コミュニケーション障害学コース）	2	29	2Q	2	言語障害者に対するスクリーニング場面の理解のため、失語症などの言語障害のある患者さんの検査場面などの映像を、ご本人・ご家族のご協力のもと教材として活用した。
認知系障害学演Ⅰ（診断） （コミュニケーション障害学コース）	2	29	3Q	6	失語症のある患者さんに対する、標準失語症検査などの実施場面を、ご本人・ご家族のご協力のもと教材として活用した。
認知系障害学演習Ⅱ（評価） （コミュニケーション障害学コース）	3	31	1Q	2	失語症のある患者さんに対する、重度失語検査の実施場面をご本人・ご家族のご協力のもと教材として活用した。また、検査結果（CADL、WAB）をデフェルメして、教材として使用した。

Ⅲ　教育実績

【授業・見学】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
地域言語聴覚療法学Ⅰ （コミュニケーション障害学コース）	1	28	4Q	1	附属診療センターを利用する失語症などがある方の中で、ご協力いただける方を対象に、学生との交流会を企画・実施した。その準備としても、訓練場面の動画などをご本人・ご家族のご協力のもと活用した。
コミュニケーション障害学診断法 （コミュニケーション障害学コース）	2	29	3Q～Q4	4	ビデオで提示する仮想事例（成人・小児）について、本診療センター内施設を利用して作成した。
ケアマネジメント （コミュニケーション障害学コース）	2	2	1Q	1	多職種（コミュニケーション学コース以外）の学生が、失語症などの理解を深めるために、ご本人・ご家族のご協力のもと教員（言語聴覚士）との会話場面を教材として活用した。
拡大・代替コミュニケーション特論 （コミュニケーション障害学コース）	4	14	1Q	3	発語以外の拡大・代替コミュニケーション手段を使用している、言語聴覚療法場面をご本人・ご家族のご協力のもと活用した。
医療ソーシャルワーク （人間福祉学コース）	2	38	11月	2	受講生を2グループに分け、11月13日・27日に診療センターの施設・設備の見学を行った。診療センターの役割や特徴、各学科のリハビリテーション等の機能を説明し、理解を深めた。

【実習】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
基礎臨床実習Ⅰ （作業療法学コース）	1	30	1月	1	例年実施している1年次生を対象とした臨地学外実習前の体験型実習を行った。
臨床実習Ⅰ （コミュニケーション障害学コース）	2	29	通年	30	学生2-3名が1組になり、言語聴覚療法の見学を1組あたり年間3回実施した。（対面または動画視聴）
臨床実習Ⅰ （コミュニケーション障害学コース）	2	29	通年	2	プレ実習として、言語聴覚障害を有する事例の協力のもと、評価・訓練場面の動画を学生に提示しながら診療の流れを学習した。
臨床実習Ⅱ （コミュニケーション障害学コース）	3	30	通年	64	言語聴覚障害のある患者さんに協力いただき、言語聴覚療法についての評価・計画立案・言語聴覚療法実施・報告書作成などを内容とする実習を、学生1人につき年間8回(ケースカンファレンス2回)実施した。（対面または動画観察で実施）
臨床実習Ⅲ （コミュニケーション障害学コース）	4	26	通年	13	耳鼻咽喉科診察（田口医師）に、学生が1-2名ずつ同席し、見学実習を行った。

【卒業研究】

卒業論文タイトル
通常学級における境界知能児への支援検討 ーインクルーシブ教育の観点からー （コミュニケーション障害学コース）
Vocal Function Exercises 短縮版における音声治療の即時的効果の検討 （コミュニケーション障害学コース）
Water resistanceにおける音声治療の即時的効果の検討 （コミュニケーション障害学コース）
オノマトペは失語症者にとって理解しやすいのか？ ー動詞，形容詞・形容動詞との比較ー （コミュニケーション障害学コース）
失語症者用単語検索appの開発　ー２層構成と3層構成の比較ー （コミュニケーション障害学コース）
CADL検査改訂に向けたパイロットスタディ　ー図版の電子化の検討— （コミュニケーション障害学コース）

Ⅳ　研究業績

【論文】

論文名	雑誌名，巻号頁	著者名	発表年月日
軽度知的障害と発達障害がある若年成人の就労意思決定過程	作業療法44(2)127-135	助川文子，伊藤祐子	令和7年4月
Factors that Influence the Improvement of Handwriting Skills of Children with Handwriting Difficulties: Scoping Review	Asian Journal of Occupational Therapy21(1)77-93	Dini Frajariani, 山西葉子, 助川文子, Supaluck Phadsri, Dwi Ayu Nur Komariyah, 伊藤祐子	令和7年5月
医療従事者のための簡易型マインドフルネス＆セルフ・コンパッションプログラムの開発：パイロットスタディ	最新精神医学30(3)195-201	松藤琴美，海老原由佳，松藤宗一郎，久野真矢	令和7年5月
A Pre-Post Study of Individualized Programs Using the Occupational Therapy Intervention Process Model in a Psychiatric Hospital in Japan.	Cureus, 17 巻, 6 号, e86918-	Yusuke Imamoto, Yasushi Orita, Hiromi Yoshikawa, Ryotaro Tsukue, Kenichi Tokumitsu, Misaki Nagai, Natsuki Yorozuya, Koichiro Fujimaki	令和7年6月
作業療法士を対象とした自殺・自傷行為に関する研修会が参加者の自殺に関する知識，態度，自己効力感に与える影響について，	作業療法, 44 巻, 3 号, 350-353	林 良太, 岸 雪枝, 川村明代, 湯川 徹, 織田 靖史	令和7年6月
Relationship Between Metabolic Syndrome Indicators Within Reference Ranges and Sarcopenia in Older Women-A 4-Year Longitudinal Study.	Geriatrics (Basel) . ;10(3):76.	Iida T, Taguchi R, Miyashita R, Aoi S, Ikeda H, Higa N, Kanagawa K, Okuyama Y, Ito Y.	令和7年6月
Sport for Recovery from Psychiatric Disorders: Psychosocial Outcomes and Factors Contributing Subjective Well-Being,	ournal of Psychosocial Rehabilitation and Mental Health,, 1-8	Shinichi Nagata, Tatsuya Yamaguchi, Takeshi Sassa, Yasushi Orita, Seishiro Inoue, Mayumi Saito, Shintaro Kono	令和7年8月
Effects of a Dart Game Intervention in Community-Dwelling Older Adults with Suspected Mild Dementia: An Exploratory Study Using the Japanese Version of the Montreal Cognitive Assessment.	Cureus . ;17(8):e90873.	Iida T, Akane M, Nakata M, Ishizuki C, Miyashita R, Nishiguchi A, Hitotsubashi N, Sakamoto T, Kaneko S, Miyaguchi H.	令和7年8月
A Pilot Study Comparing Postural Control in Adolescents With and Without Neurodevelopmental Disorders: Evaluation Under Open-Eyed, Closed-Eyed, and Auditory Stimulation Conditions.	Cureus . 29; 17(10):e95706.	Maeshige M, Iida T (CA), Morikawa A.	令和7年10月

Ⅳ　研究業績

【論文】

論文名	雑誌名，巻号頁	著者名	発表年月日
Survey on Discharge Support for Patients from Dementia Treatment Wards to Home and Associated Issues: A Questionnaire-Based Study in Japan.	Cureus, 17 巻, 11 号, e97376-	Chiaki Sakamoto, Seiji Nishida, Katsuma Ikeuchi, Kumiko Masuda, Yasushi Orita, Fujimaki Koichiro	令和7年11月
精神科病院における作業療法介入プロセスモデル(OTIPUM)を用いた個別プログラムの実践に携わる作業療法士の主観的経験	作業療法, 44 巻, 6 号, 638-437	今元 佑輔, 織田, 靖史, 池内, 克馬, 藤巻, 康一郎, 吉川 ひろみ	令和7年12月
oral diadochokinesisにおける速度と規則性の発達的変化	言語聴覚研究 22(4)445-455	小畠理恵子, 小澤由嗣, 堀江真由美, 飯田忠行	令和7年12月
Evolving the narrative utilization ecosystem with life story interpretation and generative AI tools	Human Factors in Aging and Special Needs 174: 45-58	Masayuki Ihara, Hiroko Tokunaga, Tomomi Nakashima, Hiroki Goto, Yuuki Umezaki, Yoko Egawa, Shinya Hisano,Takashi Minato, Yutaka Nakamura, Shinpei Saruwatari	令和7年7月
脳卒中後運動障害の機能再編における皮質ー毛様体脊髄路の役割	脳神経内科　103(3) 252-256	松浦晃宏, 森大志	令和7年9月
作業療法学生の時間管理と主観的ウェルビーイングの関連-横断研究-	日本リハビリテーション教育学会誌8(4) 174-183	古田翔太, 久野真矢	令和7年11月
＜特集＞　患者さんとの関係を構築して，リハを促そう．総論　コミュニケーションツールの活用	リハビリナース　19 (1)	坊岡　峰子	令和7年12月
若年健常者におけるVoice Games使用前後での発声機能と音声疲労の検討	音声言語医学　67(1) 27-36,2026.	田口亜紀, 阿部百花	令和8年1月
通所介護における作業療法士とクライエントの目標設定プロセスに関する探索的研究	作業療法・福岡(印刷中)	松藤宗一郎，松藤琴美，柿本将平，田中睦英，久野真矢	令和8年3月
簡易型セルフ・コンパッション&マインドフルネス・プログラムの開発：作業療法士を対象とした心理的変化の量的検討	作業療法・福岡(印刷中)	松藤琴美, 海老原由佳, 松藤宗一郎, 織田靖史, 久野真矢	令和8年3月

【著書】

タイトル	著者名	担当範囲	出版社	出版年月日
クリア言語聴覚療法 聴覚障害 第4章Ⅱ節聴力検査、Ⅲ節語音聴力検査	今川記恵	分担執筆	建帛社	令和7年4月
思春期吃音とのつきあい方：発話・心理・生活からのアプローチ	吉澤　健太郎	分担執筆	学苑社	令和7年6月
認知コミュニケーション障害の理解と評価・訓練　訓練に利用できる教材と使用法	津田哲也，中村光	分担執筆	協同医書出版	令和7年7月
ニュースタンダードで築く パーキンソン病の作業療法−生活機能向上のための実践ガイド　第6章評価、第7章介入	久野　真矢	分担執筆	協同医書出版社	令和7年10月
標準言語聴覚障害学「失語症学（第4版）」第4章4．健忘失語（失名辞失語）	津田哲也	分担執筆	医学書院	令和7年11月
標準言語聴覚障害学「失語症学（第4版）」第4章5．超皮質性失語	津田哲也	分担執筆	医学書院	令和7年11月
標準言語聴覚障害学「失語症学（第4版）」第7章3．認知神経心理学的アプローチ	津田哲也	分担執筆	医学書院	令和7年11月
標準言語聴覚障害学「失語症学（第4版）」第8章1．語彙	津田哲也	分担執筆	医学書院	令和7年11月
標準言語聴覚障害学「発声発語障害学第4版」	吉澤　健太郎	分担執筆	医学書院	令和7年11月
標準言語聴覚障害学「失語症学（第4版）」 第8章 失語症の言語治療の実際 5 実用的コミュニケーション	坊岡峰子	分担執筆	医学書院	令和7年11月
リハビリナース ＜特集＞　患者さんとの関係を構築して，リハを促そう． 総論：コミュニケーションツールの活用	坊岡峰子	分担執筆	株式会社メディカ出版	令和7年12月

【学会発表・講演】　　注）学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
マインドフルネス	織田靖史	三原ロータリークラブ例会	令和7年5月
明日からととのう！アンチエイジング	田口亜紀　今川紀恵　大古場良太　飯田忠行	令和7年度附属診療センター主催公開講座	令和7年6月
特別パネルディスカッション　声職に寄り添う未来耳鼻咽喉科　声職に寄り添う音声治療	渡邉雄介　田口亜紀　有働由美子　波多野雅輝　平野　愛	第87回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会	令和7年6月
失語症者1名に対する動詞の喚語力向上のための新たな訓練 ―動詞ネットワーク強化治療Verb Network Strengthening Treatment（J-VNeST）の開発と試行―	阿部恭子, 津田哲也	第26回日本言語聴覚学会	令和7年6月
Oral Diadochokinesisにおける速度と規則性の発達的変化	小畠理恵子,小澤由嗣,堀江真由美,飯田忠行	第26回日本言語聴覚学会	令和7年6月
マインドフルネス作業療法とは	織田靖史	福岡県作業療法士会教育研修	令和7年7月
吃音悪化に伴ううつ病増悪 で離職した成人女性の一例 ～職場復帰支援と ST 介入の経過～	長谷部 雅康, 吉澤 健太郎, 福田倫也, 雪本 由美	第13回日本吃音・流暢性障害学会	令和7年8月
吃音症に対する新しい流暢 性形成法（T-SIM）の開発 (2)－A pilot study－ ―成人期2症例に対する 臨床効果―	羽佐田, 竜二, 日比野 英子, 辰巳寛, 吉澤 健太郎	第13回日本吃音・流暢性障害学会	令和7年8月
電話が苦手な吃音のある人への発話訓練（発話技法を用いた電話応対のロールプレイ）	吉澤 健太郎	第13回日本吃音・流暢性障害学会	令和7年8月
感情調節困難な生徒への自主性を引き出すかかわり	織田靖史	文部科学省　生徒指導フォーラムin広島	令和7年8月

【学会発表・講演】　　注）学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
標準言語聴覚障害学「失語症学（第4版）」 第8章 失語症の言語治療の実際 5 実用的コミュニケーション	助川文子	三原市発達障害者支援コーディネーター研修会	令和7年8月
「発達検査の見立てを保育/支援現場で活かすために」	助川文子	竹原市こども園職員研修会	令和7年8月
感情調節困難な生徒への理解と関わり方	織田靖史	広島県教育委員会高等学校校長会	令和7年9月
日本語話者におけるComprehensive Aphasia Test（下位検査semantic memory）およびPyramids and Palm Trees Testの成績	津田哲也、中村光	第27回認知神経心理学研究会	令和7年9月
加齢は意味記憶に変容を及ぼすか—意味属性産生（feature Listing）課題成績の分析－	津田哲也, 中村光	第27回認知神経心理学研究会	令和7年9月
・失語症者の支援に向けて ・AAC世界の動向	坊岡峰子	AACワークショップ（成人編）	令和7年9月
・実践例 （ASD, 脳性麻痺） ・AAC世界の動向	坊岡峰子	AACワークショップ（小児編）	令和7年9月
パネルディスカッション 音声障害の治療 −症例検討を通して学ぶ医師と言語聴覚士の関わり− リハビリテーション病院で医師と言語聴覚士が行う音声専門外来	田口亜紀　兵頭直樹	第70回日本音声言語医学会総会・学術講演会	令和7年10月
発達性協調運動症の評価におけるOral Diadochokinesisの有用性 −Oral Diadochokinesis検査とDCDQ日本語版の関連−	小畠理恵子,小澤由嗣,堀江真由美,飯田忠行,中井昭夫	第34回日本LD学会	令和7年10月
マインドフルネス作業療法の実際	織田靖史	OBMリトリート	令和7年10月

【学会発表・講演】　　注）学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
一側肢の反復運動が同側大脳半球運動野の活動性に与える影響	谷川孝,森大志	第59回日本作業療法学会,高松市	令和7年11月
VFE短縮版による音声治療の即時的効果の検討	田口亜紀　香川真衣子　片岡陽菜子	第76回日本気管食道科学会総会・学術講演会	令和7年11月
CI and QOL for Older Adults	Norie Imagawa	15th Asia Pacific Symposium on Cochlear Implant's and Related Sciences 2025	令和7年11月
認知症のある方の支援のコツ～能力を引き出すための多職種連携～	久野　真矢	第2回大分県地域ケア会議アドバイザー強化現任者研修会	令和7年11月
障がい児・者を同胞にもつ幼少期のきょうだいに対して行われている国内外の支援の実際：スコーピングレビュー	市川莉沙, 助川文子, 山西葉子, 伊藤祐子	第59回日本作業療法学会	令和7年11月
当事者参加型自閉スペクトラム症「一般向けガイドライン解説」作成に向けた基礎調査	助川文子, 伊藤祐子	第59回日本作業療法学会	令和7年11月
センサリーフレンドリー音頭の開発と実践ー地域文化を基盤とした包摂的な参加支援の試みー	伊藤祐子, 荒川真由子, 助川文子, 山西葉子	第42回日本感覚統合学会	令和7年11月
Live Action Role Playingによる体験型授業を用いたメンタルヘルスにおける作業療法教育の実践	織田靖史, 今元佑輔, 古山千佳子, 坂本千晶, 吉川ひろみ	第59回日本作業療法学会, 高松	令和7年11月
作業療法×マインドフルネス	織田靖史	大分県作業療法協会教育研修	令和8年1月
先天性筋強直性ジストロフィー就学前女児の発達特性とリハビリテーションのこれまで	山下美保, 島谷康司, 小畠理恵子, 林優子	第43回 広島小児神経研究会	令和8年1月

【学会発表・講演】　　注）学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
高齢者の認知レベルに合わせた作業と環境へのアプローチ	久野　真矢	令和7年度石川県高度・専門医療人材養成支援事業 スキルアップセミナー高齢期作業療法の学びを深める	令和8年2月
The first report on the development of general public occupational therapy guidelines for autism spectrum disorder using the participatory Delphi method	助川文子, 伊藤祐子	WFOT 2026 Congress	令和8年2月
Water Resistanceを用いた音声治療の即時的効果の検討	田口亜紀　片岡陽菜子　香川真衣子	第38回日本喉頭科学会総会・学術講演会	令和8年3月

【外部資金】

タイトル	代表研究者名	制度名	研究期間
肢運動に伴う皮質運動領野の活動性増強メカニズムの検証	森大志	科学研究費補助金 (基盤研究C)	令和4～7年度
当事者参加型研究 自閉スペクトラム症作業療法「一般向けガイドライン解説」の作成	助川文子	科学研究費補助金 (基盤研究C)	令和5～7年度
意味記憶障害の有無や重症度を定量的に評価する新たな診断モデルの開発	津田　哲也	科学研究費補助金 (基盤研究C)	令和5～9年度
発声障害における音声治療法の確立	田口亜紀	科学研究費助成金 (基盤研究C)	令和6～8年度
高齢者に特化した人工内耳手術意思決定支援ツールの開発	今川記恵	科学研究費助成事業 (基盤研究C)	令和6～9年度
フレイルコホート研究の実施とリスク尺度の開発・検証：地方自治体との協働検証	飯田　忠行	科学研究費助成事業 (基盤研究C)	令和6～9年度

Ⅴ　従事者名簿

医師

小児科	山下美保
内科	安武繁
精神科	藤巻康一郎
耳鼻咽喉科	田口亜紀
脳神経外科	森大志

看護師

看護師	土路生明美
看護師（専任）	曽我歩美
	松本理恵
医療事務受付	田坂　春美
	村田智子
	井浦里恵

医療福祉職

看護師	土路生明美
理学療法士	金井秀作
	田中聡
	小野武也
	島谷康司
	長谷川正哉
	梅井凡子
	西上智彦
	岡村和典
	積山和加子
	金指美帆
	佐藤勇太
	大古場良太
作業療法士	吉川ひろみ
	久野真矢
	西田征治
	古山千佳子
	高木雅之
	助川文子
	田中睦英
	織田靖史
	坂本千晶
	池内克馬
	増田久美子
	今元佑輔
言語聴覚士	堀江真由美
	坊岡峰子
	細川淳嗣
	小澤由嗣
	長谷川純
	佐藤紀代子
	津田哲也
	中村　文
	吉澤健太郎
	小畠理恵子
	今川記恵
放射線技師	飯田忠行
社会福祉士	永野なおみ